

# 令和7年度 自己評価書

令和8年2月20日  
札幌市立山鼻中学校

## 1 本年度の重点目標

1. ワクワク心躍る山鼻中学校の創造
2. 「山鼻基盤」の盤石化
3. 「特別な教育的支援の組織的、計画的な推進」
4. 学びの質を高める教育活動の工夫を通して、自律した学習者の育成を目指す
5. 「生徒支援型の生徒指導」の推進
6. 「小中一貫した教育」と連動したコミュニティ・スクールの構築

## 2 本年度の経営方針

**新しい変化を恐れず、柔軟性・寛容性をもって挑戦し続ける山鼻中学校の創造**  
 〈子どもたちに育みたい力〉  
 新しい変化を恐れず、多様性を受け入れ、他者と共存しながら、寛容性と当事者意識をもって、主体的に自分らしく生きる力

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果と課題	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	1 楽しく通学することができ、入学して良かったと思われる信頼される学校の創造がなされている。	A	・重点目標の1「ワクワク心躍る山鼻中学校の創造」について、学校長が様々な場面で語り、それを受けて行事や各学年の取組において工夫したことが評価されたと考える。また、学びの支援連絡会をはじめとした生徒情報の共有により、目の行き届いた生徒支援が肯定的な評価につながったものと考えます。	A	A
	2 学校経営方針を具現化した、特色ある学年・学級経営が行われており、学校から教育活動について、家庭に発信することができている。	A	・保護者に対しては、学校説明会や学年懇談会、学年・学級だより等で情報発信したことにより、高い評価を得られたものであると考える。また、生徒に関しては「理解」はしているが、「実感」はできていないことが数値に反映しているのではないかと考えた。「実感」を得られる工夫、改善が課題である。	A	A
	3 安心・安全な学校づくりが推進され、命を大切に生きる生き方について考えを深める教育が、様々な場面で展開されている。	A	・保護者、生徒ともに9割以上が肯定的な回答を示していた。 ・学校内、校舎周辺の安全管理は適切に行えた。また、道徳の授業の一環として毎年実施している「命の授業」については、今年度も養護教諭の協力のもと、誕生学やデートDVなど幅広いテーマで学びを深めることができた。今年度は全校道徳教育講演会で「防災」を学んだことも評価の要因の一つと考えられる。	A	A

### 学校関係者評価委員によるご意見

- ・学校運営全般に置いて、学校運営方針や育てたい生徒像が保護者、生徒に適切に伝達されていると考える。
- ・地域社会の中で子どもを育てることが、今は便利になり、共働き家庭の増加によって変容し、価値観が変わったと感じている。だからこそ子どもの教育を親と学校と一緒に考えてほしい。
- ・子どもとよく話をすることを大事にしてほしい。
- ・学校側が生徒支援に熱心に取り組んだことで、生徒たちも充実した学校生活を送れたことは十分評価される内容だと思う。
- ・学校側が進路関連情報など様々な情報を適切な時期に発信してくれているので保護者も学校側の意図がよく理解できたと思う。
- ・学年・学級懇談会については、参加者が少ないというのは課題と思われる。集団の場で自分がコメントすることに苦手意識を持つ保護者も多くなってきていると思われるので、実施方法等については多少の改善が必要かもしれない。
- ・命の授業を始めとする道徳の授業は、思春期の生徒たちにとって大事な取組だと思うので、継続して取り組んでいただきたい。

学習指導	4	基礎・基本の確かな定着と、学ぶ意欲を高める学習内容や方法の工夫改善が行われている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的な回答の割合は「授業理解」に関する質問では、保護者7割、生徒9割であり、「授業意欲」に関する質問では、保護者6割、生徒7割であった。</li> <li>・保護者は結果（評価）から、生徒は実感（授業）から感じたことをもとに回答したため、両者間の差異が生じているのではないかと考えた。保護者には結果だけではなく、授業の取組を理解していただく仕掛け作りを図っていききたい。</li> <li>・全国学力・学習状況調査では、ほぼすべての項目において全国平均を上回った。</li> </ul>	A	A
	5	美しく豊かな人間性を育むための確かな学び、道徳教育を推進している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、生徒ともに8割の肯定的な回答を示していた。</li> <li>・道徳の授業は、学年でローテーションを組んでいるため、それぞれの持ち味を生かしたアプローチや、行事や生徒の成長過程と関連付けた道徳計画に沿って授業を行ったことが成果として表れたものと考ええる。また、今年度も全校道徳教育講演会や学年道徳を保護者参観型にしたことにより、関心をもっていただけたのではないかと考える。</li> </ul>	A	A
	6	生徒一人一人の創造性の育成を重視した上で、情報化社会に遅く対応できる基礎的な資質を育てている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度比マイナスであったが、保護者、生徒ともに9割の肯定的な回答であった。</li> <li>・学活、道徳、総合的な学習の時間を含めて、chromebookを含むICT機器を使用している時間が増えてきている。また、今年度から生成AIの校内利活用について研修を深め、一部授業でも試験的に取り扱ってみた。生徒の習熟は早く、生成AIの使用により、学びを深める様子が見られた。次年度以降の普及に向けて、情報モラルやリテラシーの指導が必要不可欠である。</li> </ul>	A	A
学校関係者 評価委員による ご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導内容において、質の高い内容を継続されていると考える。</li> <li>・知徳体のバランスを育む教育は学校と家庭の課題であるが、町内会や地域でも協力したい。</li> <li>・ICT化が進む一方で、「自分で考える」ことをどのように教えていくか、しっかり検討してほしい。</li> <li>・勉強が好きになるような声かけをしてほしい。</li> <li>・生徒たちの授業理解度が高いのは、学校側の学習内容に対する取り組み姿勢や工夫・改善の成果であると思われるため、十分評価できる内容だと思う。</li> <li>・道徳の授業は生徒たちの人間形成や心の成長を進めるうえで必要な項目であり、保護者も一緒に学べる機会を与えて頂けるのは非常に有難いと思っている。</li> <li>・中学生がIC機器に慣れ親しむのは普通になってきており、学校側には引き続き細やかな指導をお願いしたい。</li> <li>・一方で、生成AIの活用は、勉強が効率的になる一方、使い方や誤ると自分で考える力（創造力）が低下するリスクも潜在しているのではないかと考えていることから、学校側にも指導方法についてよく検討して頂きたい。</li> </ul>					

分野	評価項目	自己評価			
		達成状況	成果と課題		
生活指導	7 教職員が同じ方針で情報交流し合い、共通の見地に立ち、生徒理解に努め、生徒指導に当たっている。	A	・保護者、生徒ともにほぼ9割の肯定的回答であった。 ・「いじめ防止対策委員会」、「学びの支援委員会」、「学びの支援連絡会」の3つの会議が柱となり、生徒支援における情報が全体に行き渡り、きめ細やかな生徒支援に対して評価をいただけたものと考えます。また、これらの会議にはスクールカウンセラーや学びのサポーターにも参加していただき、より多くの目で生徒を見守る体制ができたこともよかったです。	A	A
	8 生徒自らがきまりやマナーを守るよう規範意識の育成に努め、挨拶を大切に、人との関わりを大切にす学校づくりを推進している。	A	・生徒、保護者ともに9割の肯定的回答であった。 ・ルールやマナーの意識は校内での指導だけではなく、旅行的行事、総合的な学習の時間でお世話になった方との関わりからも醸成できた。また、どの学年でも2分前着席を生徒が声を掛け合い自律的に取り組む姿が見られた。今後の展望として、ルール、マナーに限らず、「自律的な行動」が「伝統」と結びつくよう、生徒会部を中心に仕掛けを考えていきたい。	A	A
	9 相談活動やスクールカウンセラーとの連携を行い、いじめや暴力、不登校等の今日的な課題に対して迅速に対応している。	A	・保護者は8割、生徒は9割の肯定的回答であった。 生活指導7でも述べたように、生徒支援に関わる会議や教育相談室（心の教室）の運営で、スクールカウンセラー、学びのサポーター、スクールソーシャルワーカーと十分な情報共有ができてきているものの持続可能な体制づくりを今後検討していく必要がある。	A	A
特別活動等	10 学校行事には、生徒が意欲的に取り組めるように工夫している。	A	・保護者は9割、生徒は8割の肯定的回答であった。 ・文化祭準備期間の放課後活動をなくし、部活動や習い事をしやすくする方向でブラッシュアップしたが、生徒は以前と変わらず意欲的に取り組んでいる様子が見られた。 ・旅行的行事は充実した取組となったが、昨今の物価上昇により、バス代、宿泊費の他、ほぼすべての内容で値上げされていた。値上げ幅と、旅行費用の上限が見合っていないため、今後は行動範囲、取組可能なものに制限をかけざるを得ない状況であり、大変苦慮している。	A	A
	11 生徒が学級・学年・生徒会の活動に積極的に参加するように工夫している。	A	・保護者、生徒ともに9割の肯定的な回答であった。 ・昨年度課題としていた放課後の時間の使い方を見直した結果、特に活動の質が低下することは見られなかった。本校は部活動や習い事をしている生徒が非常に多いこともあり、今後も放課後活動の内容を精選していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会によるご意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導および特別活動において学校全体として取り組む姿勢を評価したい。</li> <li>・部活動、相談活動、行事実施については学校だけではなく、地域や行政の協力も必要である。</li> <li>・挨拶、ルールの順守は日常的にできなければならない。学校任せにせず、親の指導も必要である。特に挨拶は、笑顔で相手に目を合わせて行うことを大事にしてほしい。</li> <li>・学業以外の取組に参加することは大事であり、様々なことに積極的になれる子どもであってほしい。また、自分ができることから挑戦してほしい。</li> </ul>			

① 評価項目の【 】内は、生徒・保護者アンケートの番号を表す。

② 達成状況のアルファベット評価は、「A」が各アンケート項目の達成率の平均値が70%以上、「B」が50%以上、「C」が50%未満を示す。アルファベット評価の下の数値は、各アンケート項目の達成率の平均を表す。

※ 学校関係者評価委員会における評価は多数決ではなく、1名でもCの場合はCというように最も低い評価を記載しました。